

利根川河口堰を通る“魚”～サケ～



夏の調査で確認されたサケの稚魚



利根川河口堰ゲートをさかのぼるサケ

サケは、川で生まれ、3～5ヶ月の間、水中の昆虫をエサとして、砂の中に潜って暮らします。その後、群れをなして海に下り、オホーツク海、ベーリング海などで育ちます。1年～6年で、産卵のために再び生まれた川をのぼってきます。

利根川はサケが産卵のためにのぼってくる南限と言われていました。

利根川河口堰では平成14年度より毎年、魚類の遡上調査を行っています。

夏の調査では海に下るサケの稚魚が、秋の調査では川をのぼるサケが確認されています。

利根川中流域に位置する利根大堰によると、昨年の12月にはおよそ9千匹が確認されています。

トピックス

11月 3日	第23回東庄ふれあいまつり
10月 9日	第19回麗ヶ浦ふれあい遠眺
21日	2010 コジュリンマランソン
10月11日	第2回東庄町RC航空ショー
28日	第29回麗ヶ浦クリーン作戦
17日	第2回麗ヶ浦検定、第20回麗ヶ浦ふれあい遠眺、水道水源(黒部川)清掃活動
2月(予定)	サケ稚魚放流(利根川河口堰付近)
3月 6日	第75回麗ヶ浦・北浦地域清掃大作戦
3月(予定)	妙枝の鼻野焼き

▼ご案内

水資源機構では、事業活動に伴う様々な環境保全の取組みを全社的に行っており、平成21年度の取組みについてまとめた「環境報告書2010」を以下のホームページで公表していますので、是非ご覧ください。

<http://www.water.go.jp/honsya/honsya/torikumi/kankyo/houkoku/index.html>

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年も皆さんにとって良い1年であることを願っております。

さて、今回は東庄町の紹介をさせていただきましたが、紙面では町の良さをすべて伝えることができませんので、皆さん足を運んでみてください。併せて、私どもの仕事の一部を紹介させていただきました。今後もより良い紙面づくりのために、皆さまのご意見やご要望があれば、HPや紙面を利用しお答えいたしますので、お聞かせください。



利根川下流総合管理所 〒300-0732 茨城県取手市上之島3112 電話0299-79-3311 FAX 0299-79-3316
 利根川河口堰管理所 〒289-0611 千葉県香取郡東庄町新宿2276 電話0478-86-0477 FAX 0478-86-3457
 玉造管理所 〒311-3512 茨城県行方市玉造平1234 電話0299-05-4331 FAX 0299-05-4310
 ※ご意見、ご質問等ございましたらご連絡なくお寄せ下さい。(メールアドレス:mizu-tonekaryu@nifty.com)

水の郷から

～水がささえる豊かな社会～ vol. 3

2011年(平成23年)1月発行

発行所
独立行政法人水資源機構
利根川下流総合管理所
広報誌編集委員会
●メールアドレス
mizu-tonekaryu@nifty.com
●ホームページアドレス
http://www.water.go.jp/
kanto/kasuniga/

ちよっくら散歩

とうのしょう
～東庄町～

ホームページは：<http://www.town.tohnosho.chiba.jp/>

プロフィール



今回は、私どもの利根川河口堰管理所がある東庄町を紹介いたします。東庄町は、昭和30年に1町3村が合併し誕生した人口約1万5千人の町です。利根川の恵みと温暖な気候に恵まれ、「いちご」や「こか

ふ」(商標名：ホワイトボール)、天然うなぎやNHK連続ドラマ小説「薄くし」の舞台となった醤油造りなどで知られています。また、利根川・黒部川一帯はコイ、フナ、ハゼなどの穴場で知られ休日になると釣りを楽しむ多くの人々で賑わいます。

いちご狩り

1月上旬から5月下旬まで、町内にある7ヶ所のいちご園でいちご狩りを楽しむことができます。また、国道356号線沿いには、いちごの直売所が並び、通称「いちご街道」と呼ばれています。-(各いちご園の詳細は、東庄町のホームページをご覧ください。)



東庄ふれあい朝市

毎週日曜日、国道356号沿いの利根川河口堰入口交差点にある会場では午前6時から10時ごろまで朝市が開かれます。

地元の野菜や鍋子方面から運ばれた鮮魚、水産加工品、さらに花や衣料品、日用品雑貨が並び、新鮮な農水産物や掘り出し物を求めて、他の町からも多くの人々が集まります。



東庄RC(ラジコン)航空ショー

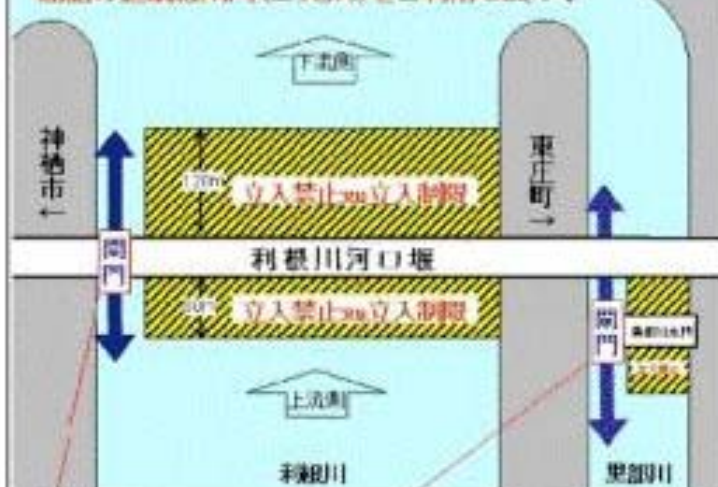
利根川河口堰上流の河川敷では平成21年から「東庄RC(ラジコン)航空ショー」が開催されています。昨年10月11日には、全国から約50機の大型ラジコン航空機が集まり、無線操縦者のスゴ技、ジェットエンジンを搭載した迫力ある音と華麗な舞が披露されました。



魅力ある町「東庄町」へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

利根川河口堰を通航するみなさまへ

船舶の通航は閘門(こうもん)をご利用ください。



利根川閘門および黒部川閘門は、昨年10月17日～29日の間、通航止めにして整備を行いました。ご利用のみなさまには大変ご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。おかげさまで無事閘門の整備も終了し、通常通り通航できるようになりました。

なお、通航するにあたっては、公告看板に書かれている注意事項を守って、安全に十分気をつけて航行していただくようお願いいたします。詳しくはホームページ(<http://www.water.go.jp/kanto/tonekako/index.html>)をご覧ください。

○利根川閘門に上流から上流まで通航できます。 ○黒部川閘門は上流から上流まで通航できません。

施設紹介『妙岐の鼻』



妙岐の鼻は50haにも及ぶ関東最大級のヨシ原です。ヨシ原全体が鼻のようにつぎた形をしていることからそう呼ばれています。妙岐の鼻には実に多種の動植物が生息しており、鳥類の観察小屋や木道もあり、自然観察に多くの方が訪れます。近くにお越しの際は、ぜひ、妙岐の鼻にお立ち寄りください。

『霞ヶ浦の水質保全について』

その1～霞ヶ浦の水質観測所紹介～

利根川下流総合管理所では水質保全の一環として、水質状況の把握や、湖岸の自然環境の保全・再生のための前浜造成、沈水植物の優元試験などに取り組んでいます。今回は、霞ヶ浦における水質状況の把握を行っている施設を紹介します。

霞ヶ浦では、国土交通省と共同で西浦で4地点、北浦で3地点、常陸利根川で2地点の計9地点に自動観測所を設置しています。水資源機構ではそのうちの6地点の観測を行っています。

西浦の湖中にある掛馬沖観測所は帆引き船、北浦湖中の龍谷沖観測所は徳島神宮をイメージした施設となっています。観測所への一般の方の立ち入りは禁止していますが、湖岸沿いから見る事ができます。

今回は水質観測項目と観測データについて紹介します。



霞ヶ浦水質自動観測地点



コスト削減への取組～交換部品の再利用～

利根川下流総合管理所では、水門やポンプなどの管理を行っています。これらの設備は長年の使用により、水中部の腐食や各部の摩耗が進行していくため定期的に部品交換などを行う必要があります。

この交換部品を新たに用意するのではなく、これまで使用していた部品を工場で整備し再使用することにより、積極的にコスト削減を図っています。



今後も安全で良質な水を安くお届けするため、コスト削減への取り組みを行って行きます。